



～訓子府町まちづくり推進会議条例に基づく～

令和6年
5月24日発行

第13回まちづくり推進会議

日時：令和6年3月26日（火）19:00～20:30 場所：公民館多目的ホール
出席者：委員18名 事務局3名

会議の内容

◆第13回まちづくり推進会議の議題

今回のまちづくり推進会議では、以下のテーマについて、事務局から口頭により説明を行い、活発な意見交換を行いました。

【会議のテーマ】：まちの課題について②

- ・今回会議の目的、前回会議の振り返り、今後の流れについて
- ・今後の会議のテーマについて、事務局案を提案
- ・専門部会の説明

その主な意見をご紹介します。

◆主な意見等

- A委員：前回会議では、移住定住の話題がメインにならざるを得ないような会議だったと思う。「移住定住」に焦点を当てても、訓子府の将来、10年後15年後20年後どうしますかという話は深まらないと思うため、個人的に「まちの課題」というネガティブな部分に着目するのではなく、「訓子府の強みとは？」という部分に着目して、将来像を描いていった方が楽しく、未来ある話し合いができると思う。訓子府の強みをもっと掘り下げることのできるテーマにしてほしい。
- B委員：やはり定住対策と言われると、訓子府へ、いかに人が入ってきてくれるかということを考えなければならない。そうすると訓子府の良さや強みを表現することも重要。そのため、移住定住対策の中にA委員の言っていた子育てや町の強みの部分も組み込んだテーマで話し合えばいいのではないかと。一つのテーマに絞らず、少し広い雰囲気の中で話していった方がうまく行くのではと思う。
- A委員：こういう町にしたいという目標・目的がないと、どういう政策というのが具体化してこないと考える。手段の一つとして、移住定住や情報発信という具体施策というものになっていくのだと考えるが、その土台となる部分を全員で共通認識を持ち、話し合いを深めていった方が、話しやすいと思う。
- C委員：こういう町にしたいという目標があれば、そもそもこの会議はいらないのでは。その目標がわからないから、とにかく町を良くしたい、人を増やしたい、そういう思いが全部絡まっており、それを良くしていくということが一番の目的だと思う。そのため、一つのを設定しても、これはどうで、あれはどうだという風になってしまうため、一つに絞ることも良くないと考える。前回の話し合いで、移住定住についての意見が多かったことから、それに焦点を当てようという考えだろうが、その前に何故移住定住が必要なのかという話し合いをした方がいいのではないかと。



- D委員：町から人が出ていかないように住宅に関する政策を展開すればいいのではないかと。訓子府町においても人口減少は進んでいるが、それほど深刻化していない今から対策を考えておこうというのが会議の目的であり、どちらも似たようなことを言っているのではないかと感じる。
- A委員：定住対策と言っても範囲が広いので、ターゲットを決めていくことが必要だと思う。
- C委員：この「移住定住対策」というテーマは、最終的な大きなテーマであって、このテーマを達成するにはどうしたらいいのだろうかと考えたとき A 委員が言われたような訓子府の強みを発信すれば、本町への移住を考えてくれる人も出てくるのではないかと感じた。移住定住する方が決まってない段階で住宅施策を出し、人が入りもしない住宅を建設し、町民の負の財産になっても困るという懸念がある。訓子府の魅力なり、それを発信していくことが、移住定住に繋るため、どちらの話も同じ目標に向かっているのだと思うが、最終目標である人口を少しでも減らさない、少しでも人口減少を抑制する方法などを考えられればと思う。そのため、個人的にはこのテーマでもいいと思うし、このテーマを達成するために A 委員の意見からヒントを得たのだと考える。
- E委員：北海道全体で最大都市の札幌市ですら、人口はピークアウトし、減少している状況。道東においては、訓子府より大きく、住宅等様々なものが整備されている町ですら、将来的には壊滅的な状況になると言われている。帯広市は道東地域で特に人口減少が緩やかな町であり、その要因としては「帯広モンロー主義」と呼ばれる地域性が考えられる。帯広や十勝の人は自分たちの町を誇りに思っており、その愛着が地域の魅力や人口減少の緩和につながっているのだと予想する。このことから A 委員が言っている「強み・魅力」といったものをこの訓子府の町民がみんな共通認識として持つことが大事だと考える。強みの一つとして、子育てとは言われてはいるが、訓子府町に限らずどこの町も同じような子育て施策はある。その中で、訓子府町の子育てを他の町と差別化するために必要なものは、教育だと思っており、教育が盛んな町というのは、将来的に移住定住に繋がっていくのではないかと考える。地域の学力向上のために何が必要なのかなどを会議で話し合い、どのようにコミュニティとして絡んでいくか、教育のレベルを高めていくために今後の図書館のあり方などの課題に対して、町に提案していくという流れであれば、一つの方法として面白いのではないかと考える。要するに強みは何なのか、それを町民みんなで認識・共有し、その強みを PR していくことが重要。その強みの一つは子育てであり、まだ足りていない部分もあるため、そこをどのように対策していくかが一つの課題であると考えます。
- F委員：移住定住の方法が課題であると思う。町外に出さない、外から様々なものを持ってくる。その方法だったり、企業だったり、教育だったりを増やすことができれば、訓子府の強みや目玉になっていくのだと思う。
- A委員：先ほど話の合った十勝地方も農業の町であるが、十勝では農産物を広尾港から全国各地に送っており、対して訓子府は、石北峠を通るか、JRで送る以外の手段がないため、十勝地方に敵わない部分がある。具体策は思いつかないが、農業の町であることをPRして、どうやって十勝に勝てるのかを考えると、特色をつけてブランディングして売り込んでいくしかないと思う。例えば佐渡の例では、ネオニコチノイドを使った農薬は使わず、減農薬として売り込んでいるなどの事例があるため、そのように訓子府は農業の町として、生き残っていく方法というのを考えた方がいいと思う。訓子府の目指すべきところを先に共通意識を持たなければ、移住定住の話をしていても考え方がぶれてしまうのではないかと考える。



- G委員：先ほども話の合った教育のことで思うことがある。子どもたちと稲刈りや田植えなどの体験をしているが、農業体験というのは自棄的なタイミングが難しい。どうしても学校のスケジュールに合わせる必要があるため、適切な時期に実施できないことがある。学校が春先は忙しいというのは理解できるので、訓子府町が農業のまちであることを子どもたちに理解してもらうためにも、役場などにも協力してもらい上手くできる方法はないかなと思う。
- H委員：今年の訓子府高校の入学人数が 30 数名と聞き、様々な施策が成功した良い例であると感じた。
- I委員：移住定住してもらうには、やはり農業が重要。しかし、新規就農者などを増やすというのは難しいと思われる。他の分野で移住定住のことを考えると商業施設が訓子府にあるということが移住定住につながると思うので、商業をもっと活性化させると良いと思う。
- J委員：農業でユーチューバーをしている人が町内にもいるので、農業以外の訓子府に関する発進等も協力を要請するなど、情報を発信していくことが重要だと思う。情報発信の使い方の問題などを話し合うのも面白いのではないかなと思う。
- K委員：移住定住対策といっても広いテーマであるため、そこに行くために何が必要か考えたが、魅力を見つけ、それを新たな魅力とするのか、今ある問題点を解決し、魅力としていくのか、多岐にわたるものであると感じた。町に対し、その中から一つを提案するのか、何か様々な意見をまとめて提案するのかというところまでは、想像がつかないが、目標を移住定住対策とした場合、そのための何について話し合っていくというのを決めておかないと、提案するものが決まっていけないのではないかなと思う。
- L委員：しばらく町を離れていて、数年前に帰ってきたが訓子府町はとても住みやすい町であると感じている。しかし、この良い町というのを住んでいる者はわかっている、よその人がわからなければ、意味がないと思う。だからこそ、それを上手に発信していけば良いのではないかなと思う。
- M委員：町全体として、情報の発信の仕方を上手くやれるようになれば良いと思う。
- N委員：人口減少を食い止めるという考え方ではなく、増加させるという考え方をしなければならないと思う。移住定住対策で人口を増やすことを考えるのであれば、やはり働き口を増やすことが重要であると思う。また十勝の話になるが、北見の飲食店では、原材料を何処産と書いていても訓子府産とか北見産などと書いていところが少ない。しかし、十勝の飲食店はどこも詳細に書いているため、そういう部分から十勝の人は十勝が好きなのだと感じられる。自分たちが訓子府の住民として訓子府がもっと好きになる、そして訓子府をもっと知ることが一番大事なのではないかなと思う。
- O委員：個人的に考える訓子府の強みとしては、まずプールやスポーツセンター、役場、学校などの各種施設が 1 か所に集中しており、利便性が高いところが挙げられる。次に子どもの少年団活動や習い事が活発であるところが強みの一つであると思う。自分の子どもも通っているが、スキーやプールでは、先生方が一生懸命指導してくれるため、ちゃんと習得することができた。地方の都市であれば、習い事なども結構お金がかかるが、訓子府ではそれほどお金がかかることなく習得できるため、この少年団活動や習い事が活発であるという部分も町の強みであると発信して、子育ての町になれば良いと思う。他にも訓子府は、地震などの災害が少ないところも強みであると思う。強みとは別に訓子府には一軒家の賃貸が全然ないため、一軒家の賃貸があれば、ファミリー層が訓子府に来てくれるのではないかなと思う。
- H委員：訓子府には若い担い手の方、独身の方が多いと思うので、婚活などの結婚活動を手伝ってくれる人がいると良いと感じた。そうすればパートナーができ、子どもも増えるかも知れない。移住定住だけではなく、そういった別目線を持つことも大切だと思う。



O委員：一軒家を探す時に訓子府中を探し回ったが、人が住んでいないのではないかという住宅がいくらかあった。そういった住宅を貸出してくれば助かると思ったので、そういった住宅を利用できる制度があれば良い。空き家バンク制度で空き家を購入することはできるが、やはり購入となると度胸が必要となるため、気軽に住める一軒家の賃貸やそういった空き家を活用した制度があれば良いと思う。

P委員：魅力を発信していくというのも大事であるが、魅力の発信が先走り過ぎて、移住してきたいという外部の人たちの数と住宅の数が合わなくなるのではないかなという懸念がある。自分自身、公営住宅は空いてはいるが、所得制限のため入居できないということがあり、結局、入居できる賃貸住宅が限られてくるということがあったため、そうなるとその移住してくれる夫婦とか、そういう人たちが出てきたときに、入居する住宅がない、または限られているみたいなことになることが、逆に印象を悪くしてしまうのではないかと思う。だからこそ、先ほど新しく入ってくる人の見込みがないのに新しく住宅を建設しても町に負担がかかるという話も出ていたが、移住定住をしてもらうための基礎として、住宅が必要ではないか考える。

A委員：自分も移住してくるときに、住宅探しに苦労した。移住定住にするにしてもやはり実情はどうか、町のことをもっと知らなければならないと思う。そして、町の実情を知った上で、移住定住をどのように進めていくのかという流れにしていきたいと思う。

まちづくり推進会議の資料は、役場庁舎(正面玄関横)および図書館に設置しています
「まちづくり情報コーナー」で閲覧できます。

